

たけべ米 栽培ごよみ

— 特別栽培米 ヒノヒカリ(レンゲ) —

たけべ特別栽培農産物研究会

◎特別栽培とは・・・◎
次の①と②の両方の条件を満たす栽培

①化学合成農薬の使用回数が慣行レベルの50%以下
②化学肥料の窒素成分量が慣行レベルの50%以下

◎栽培のポイント◎

- ・日当たりの良い、平坦地が適する。
- ・播種、田植が早いと高温障害を受けやすくなるので注意する。
- ・ガスの発生に注意し、「間断かんがい」「中干し」により根を健全に維持する。
- ・有機質肥料は、葉色がやや薄くなるので、施肥過多にならないよう注意する。
- ・穂肥時期は化成肥料を使う場合より、やや早めに施用する。
- ・刈り遅れると茶米が発生しやすいので、適期収穫に努める。

【ヒノヒカリ特性表（農業試験場における成績）】

早晩性	出穂期 月.日	成熟期 月.日	稈長 cm	草型	いもち		白葉枯病	紋枯病	耐倒伏性	品質	食味
					葉	穂					
中	8.28	10.10	81	偏穂	中		弱	中	強	上の中	上の上

		5			6			7			8			9			10		
月		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	
生育ステージ	茎数																		
	30																		
水管理																			
管理作業		<p>① 種子消毒 ② 育苗箱処理 ③ 除草剤散布</p> <p>種子の準備 播種 レンゲすき込み 基肥の施用 代かき 移植 除 穂肥 ※病害虫防除 落 水 収穫</p> <p style="text-align: right;">レンゲは種</p>																	
防除体系	【例】																		
		用途	薬剤名	希釈倍数及び使用量	使用時期	使用方法	対象病害虫	成分数	使用回数										
	①種子消毒	(温湯消毒)	—	浸種前	—	いもち病、ばか苗病、シカレセンチュウ等	0	—											
	②育苗処理	嵐プリンス箱粒剤10	50g/箱	播種前～移植当日	育苗箱の苗の上から均一に散布	いもち病、紋枯病、ウカ類、イネミズウムシ等	2	1											
	③除草剤	エーワン1キロ粒剤	1kg/10a	移植後5日～ル・I3葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布	水田1年生雑草、ウリカワ、ホタルイ	2	1											
	※殺虫剤	スタークル粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで	散布	ウカ類、ツマグロヨコバイ、コメイチブ、カメムシ類等	1	1											
							5												
<p>※病害虫や雑草の発生状況に応じて薬剤を選択し、使用成分を9成分以下にすること。 追加防除・薬剤変更は、普及センター等へ相談ください。</p>																			
施肥体系	【例】																		
				N	P	K													
	基肥	レンゲ	2,000																
		菜種粕ペレット	50	2.7	1.0	0.5													
		有機PK2号	30	0.3	3.0	3.0													
	穂肥	有機653	50	3.0	2.8	1.8													
計			6.0	6.8	5.3														
<p>※化学肥料使用量(窒素成分) 0kg</p>																			

【施肥のポイント】

- レンゲの生育量に応じ、すき込みの時期を考慮する。
- レンゲのすき込み量で、基肥(菜種粕)を加減する。
- 穂肥(追肥)は、地力や生育、葉色に応じ、時期と量を加減する。

・特別栽培米生産ほ場には看板を立てましょう！

・栽培管理日誌は確実に記入しましょう！！

たけべ米 栽培ごよみ

— 特別栽培米 ヒノヒカリ（堆肥） —

たけべ特別栽培農産物研究会

◎特別栽培とは・・・◎
次の①と②の両方の条件を満たす栽培

①化学合成農薬の使用回数が慣行レベルの50%以下
②化学肥料の窒素成分量が慣行レベルの50%以下

◎栽培のポイント◎

- ・日当たりの良い、平坦地が適する。
- ・ガスの発生に注意し、「間断かんがい」「中干し」により根を健全に維持する。
- ・有機質肥料は、葉色がやや薄くなるので、施肥過多にならないよう注意する。
- ・穂肥時期は化成肥料を使う場合より、やや早めに施用する。
- ・刈り遅れると茶米が発生しやすいので、適期収穫に努める。

【ヒノヒカリ特性表（農業試験場における成績）】

早晩性	出穂期 月.日	成熟期 月.日	稈長 cm	草型	いもち		白葉枯病	紋枯病	耐倒伏性	品質	食味
					葉	穂					
中	8.28	10.10	81	偏穂	中		弱	中	強	上の中	上の上

		5			6			7			8			9			10		
月		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	
生育ステージ	茎数																		
	30																		
水管理	やや深水																		
	10																		
管理作業	種子の準備	<p>① 種子消毒 種</p> <p>② 播種 基肥の施用</p> <p>③ 育苗箱処理 移植</p> <p>④ 除草剤散布</p> <p>⑤ 穂肥</p> <p>⑥ 病害虫防除</p> <p>⑦ 落水</p> <p>⑧ 収穫</p>																	
	種																		

・特別栽培米生産ほ場には看板を立てましょう！

・栽培管理日誌は確実に記入しましょう！！

防除体系

【例】	用途	薬剤名	希釈倍数及び使用量	使用時期	使用方法	対象病害虫	成分数	使用回数
①	種子消毒	(温湯消毒)	—	浸種前	—	いもち病、ばか苗病、シカレセンチュウ等	0	—
②	育苗箱処理	嵐プリンス箱粒剤10	50g/箱	播種前～移植当日	育苗箱の苗の上から均一に散布	いもち病、紋枯病、ウツカ類、イネミスジウムシ等	2	1
③	除草剤	エーワン1キロ粒剤	1kg/10a	移植後5日～ 刈り3葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布	水田1年生雑草、ウリカワ、ホタルイ等	2	1
※	殺虫剤	スタークル粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで	散布	ウツカ類、ツマグロヨコバイ、コメイチブ、カメムシ類等	1	1
※病害虫や雑草の発生状況に応じて薬剤を選択し、使用成分を9成分以下にすること。							5	

追加防除・薬剤変更は、普及センター等へ相談ください。

施肥体系

【例】		(kg/10a)			
		N	P	K	
基肥	堆肥	1,000			
	菜種粕ペレット	50	2.7	1.0	0.5
	有機PK2号	30	0.3	3.0	3.0
穂肥	有機653	50	3.0	2.8	1.8
	計		6.0	6.8	5.3

※化学肥料使用量(窒素成分) 0kg

【施肥のポイント】

穂肥(追肥)は、地力や生育、葉色に応じ、時期と量を加減する。